



# 明化の教育

2月号（第519号）

令和6年1月31日

文京区立明化小学校

校長 熊倉 勝

## 明化小学校の安全教育について

副校長 原 洋子



先日、3年生対象で自転車シミュレータを開催し、自転車の乗り方や点検の仕方などを学びました。

令和6年1月1日、石川県の能登地方に大きな地震が発生しました。被災された方々に心からお見舞いを申し上げますとともに、一日も早い被災地の復旧・復興を心から願っております。

さて、学校安全の活動は大きく分けて三つあります。児童生徒等を取り巻く環境を安全に整えることを目指す安全管理、児童生徒等が自らの行動や外部環境に存在する様々な危険を制御して、自ら安全に行動したり、他の人や社会の安全のために貢献したりできるようにすることを目指す安全教育、そして両者の活動を円滑に進めるための組織活動です。各学校で学校安全年間計画を作成し、それ

に沿って安全管理や安全教育を進めています。文部科学省「学校安全資料『生きる力』をはぐくむ学校での安全教育」（2019）では、学校における安全教育の目標は、「日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、自他の生命尊重を基盤として、生涯を通じて安全な生活を送る基礎を培うとともに、すすんで安全で安心な社会づくりに参加し貢献できるような資質・能力を育成することを目指す」と明記されています。安全管理や安全教育を通して危険に遭わないことが一番よいのですが、自然災害のように避けられないこともあります。

そこで学校では安全管理とともに、児童に対する安全教育に力を入れています。毎月実施している避難訓練も大切にしている活動です。避難訓練では火事や地震、不審者など、様々な想定をもとに訓練をしています。現在、明化小学校は校舎改築中ですが、どの経路を使えば安全に素早く児童を避難させることができるのか、教職員も考えて案を作成しています。また、その指導の際に大切にしているのは「自分の命は自分で守る」ことです。万が一、学校で地震があった際は学校で児童を預かることができますが、災害はいつ起こるか分かりません。東日本大震災の際は、低学年の児童は下校の時でした。あの時、泣きながら学校に戻ってきた児童を教職員で保護しました。その後、高学年の児童と一緒に保護者への引き渡しを夜中まで行ったことが思い出されます。避難訓練の際には、これが登校中の地震だったらどうするかという問いを児童に投げかけます。自分の今いる場所は自宅と学校のどちらが近いのか、万が一の時の家族との待ち合わせ場所は決めているのか、塀や電信柱、自動販売機、看板など、倒れてきそうな物は近くにないか、即座に判断して避難すると同時に、自分の頭をランドセルやバッグで守り、自分の命を守ることを学ばせています。

明化小学校では他にも各学年でセーフティ教室を実施しています。内容は1、2年では歩行者シミュレータ、3年では自転車シミュレータ、4年では不審者対応訓練、5、6年では情報モラル教室などです。地域の警察や東京都から外部講師を招き、体験的な学習に取り組んでいます。

今年度は残念なことに都内小学校で交通事故死が続けて起こっています。防げない不慮の事故や災害もありますが、「危険を予測し、回避できる子供」「自分の命は自分で守る子供」を育て、将来、自分の命だけでなく地域や社会の安全も守れる人材になれるように、全教職員で安全教育を進めて参ります。今後とも、学校の安全教育に対し、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。